

## インバウンドの増加がもたらす功罪をにらみながら

インバウンド(訪日外国人客)の波は、地方の鳥取県にも着実に押し寄せている。2017年の県内外国人宿泊者数は前年比4割増で過去最多の14万人余り。18年は西日本豪雨による鉄道網の寸断があったにもかかわらず、さらに増える見通しだ。

米子鬼太郎空港(境港市)を発着する国際定期便のソウル便や香港便の利用が好調で、秋以降相次いで増便された。境港に寄港するクルーズ客船が増え、18年の寄港数は37回。6万人余りの乗客が立ち寄った。19年は50回以上の寄港が見込まれている。

人口減少に苦しむ地方の経済の振興にインバウンドは欠かせなくなり、県は受け入れ環境の整備や誘客に力を注ぐ。指をセンサーにタッチするだけでチェックインや支払いができる生体認証の実証試験に全域で取り組むことを決め、香港航空の全便の搭乗券にAR(拡張現実)コードを付けて観光PRに活用する試みも始める。

外国人観光客の増加は日本だけでなく世界的な傾向だという。各国の発展や格安航空機(LCC)の拡大を考えればうなずける。地方にあっても今後ますますインバウンドは増えていくだろう。

一方でこのところ「オーバーツーリズム」や「観光公害」といった言葉も聞かれ始めた。京都や鎌倉などの有名観光地は人であふれ、市民生活に影響を及ぼすまでになっている。

鳥取市の鳥取砂丘を中心に17年11月に行われた「ポケモンGO(ゴー)」の特別イベントもそうした現象が見られた。県外客が殺到し、渋滞や違法駐車などで苦情が相次いだ。

インバウンド推進に異論はないが、負をもたらす可能性もにらみながら対策を進めなければならない。

新日本海新聞社 西部本社 編集局長 杉村周二